

地域情報（県別）

【東京】「良い医師は良い医師を紹介できる」患者目線の診察を大事に-名倉直重・名倉医院副院長に聞く◆Vol.2

開業医の寿命が短いのは●●に一因がある？

m3.com地域版

1770年に東京・千住の地で創業した整形外科の名倉医院本院。9代目の名倉直重氏は250年以上の歴史を誇る同院で副院長、分院の名倉医院駅前クリニックで院長を務めている。わずか10年前に敷地内の蔵から発掘された数々の絵画や手紙により、歴史上の偉人と名倉家のつながりが明らかに。先人の志を受け継ぎながら、最新医学との融合も目指す名倉氏に話を聞いた。（2023年6月19日インタビュー、計2回掲載の2回目）

▼第1回はこちら



名倉直重氏、リハビリ室にて

——2年前から受け入れている医学生の地域医療実習について教えてください。

医学部5年生の時に実習を受けた整形外科クリニックでの思い出が心に残っていて、いつか自分も医学生を受け入れたいと思っていました。そのクリニックの医師が、いろんな患者さんに合わせて自分を変えていく必要がある、自分を押し通してはならないという意味で、「医者には役者であれ」という言葉を教えてくれたのです。医師になった今もその言葉が生きていて、自分も医学教育の中でそういうことを伝えられたらいいなと思って。出身大学の医学部長に相談したところ快諾していただき、2020年に厚生労働省臨床研修指導医の資格を勧められて取得しました。

医学生の受け入れは2021年から始め、1年目は2人、2年目は4人、2023年は8人と増えていっています。来年も増えたらいいですね。1人2週間、マンツーマンで指導しています。1年目は昔の自分を見ているような気分でした。自分自身、気合が入っていてかつ緊張、ちょっと自信もなかったかもしれません。でも毎年、学生が楽しんで帰ってくれるのでうれしいです。将来彼らが医師になった時に、実習での経験を生かしてまた新たな出会いがあればいいなと思います。みんなが整形外科医になるかはわかりませんが、あわよくばうちを手伝ってくれるといいなとも（笑）。

——地域医療の課題、工夫していることは。

医師になってから医学書通りにはいかないということを多く経験してきました。地域医療に限ったことではありませんが、特に難しいと感じるのはこちらが提案した治療方法を患者さんが受け入れてくれない時です。例えば、大病院や専門性の高い病院に行く際は、すでに治療の方向性がある程度決まっていますので、患者さんは治療方法をスムーズに受け入れやすい。しかし当院は一次医療を行っていますので、「とりあえず」「まず」と来院する患者さんに診断をつけるところから始めます。患者さんの立場に立って何が一番適切なのかを考え、勧める治療法に納得がいかなければセカンドオピニオンで納得してもらおう。そのために医療機関同士の連携を密にしておくことはとても重要であり、当院の役割でもあります。

現在の医療は細分化されていて、それぞれの病院に特色、それぞれの医師に得意分野があります。自分一人では限界がありますし、「良い医師は良い医師を紹介できる」と考え、患者さんに適切な病院、医師を紹介することを心がけています。

——整形外科医として行っている健康法は。

アンチエイジングに興味があり、日本抗加齢医学会に所属しています。「人生100年時代」と言われる時代になりましたが、本当に健康でいられる時間は少ないものです。同学会は「老化は疾患」と捉え、「コーヒーと健康について」「細胞老化を食い止めるには」といったことを学問的に突き詰めています。整形外科の観点で言えば、「運動がどれだけ効果があるのか」というトピックは特に興味深いです。開業医の平均寿命がおよそ70歳と報じられたことがあります。それは「座り続けている時間」が長すぎることに一因があるのではないのでしょうか。私も座りっぱなしに気を付け、時間を見つけてはウォーキングを行っています。



名倉直重氏（名倉氏提供）

——名倉医院9代目医師として目指すことは。

医学は日進月歩なので知識のアップデートが不可欠です。先人たちが遺してくれたものを守らなければならないし、守りながら新しいものを取り入れるのも大事だと思います。当家は代々骨接ぎを行っていましたが、御茶ノ水に名倉病院を開業した5代目の謙蔵が蘭学・西洋医学を取り入れました。私も小さな頃に骨折して名倉病院に入院したことがあるんです。現在、名倉病院は名倉クリニックと名前を変えておじが引き継いでいます。

こうした温故知新の精神があって今の当院があります。先人に倣い、温故知新を大切にしたいですね。そして今後もより一層、医療機関の連携を密にしていくことを目標としています。

◆名倉 直重（なぐら・なおしげ）氏

2008年東邦大学医学部卒業。2010年北里大学病院整形外科入局。2015年丘整形外科病院出向。2019年同大学大学院医療系研究科博士課程修了。現在名倉医院副院長、名倉医院駅前クリニック院長。

【取材・文・撮影＝賀来比呂美】

